

外来生物調査プロジェクトProject A 報告

外来種＝ムネアカオオクロテントウの移入でクズが^{はびこ}蔓延る？

見慣れないテントウムシが、本会元評議員の春澤圭太郎さんによって見つかり、筆者のところに写真が送られてきました。大阪府河南町の石川河川敷で2015年9月に採集したとのことでした。オレンジと黒の強いコントラストが印象的で、ナナホシテントウやナミテントウより一回り大きく、真ん丸の種類でした(図1:16ページ)。

近年見つかる外来種は中国・台湾など近隣諸国のものが多い印象でしたので、とりあえず台湾のテントウムシ図鑑(虞, 2011)を開いてみたところ、すぐに該当しそうなものが見つかりました。テントウムシの分類に詳しい齋藤琢巳さん(尼崎市)にお知らせし、くわしく形態を調べられて、これが*Symona consanguinea* Poorani, Slipinski et Booth, 2008(中国名:紅頸瓢蟲)というものであることがはっきりしました。「ムネアカオオクロテントウ」という和名を新たにつけて、発表しました(齋藤・春澤・初宿, 2016)。

関西では春澤さんの発見が最初だったのですが、関東では前年の2014年にすでに見つかること

がわかりました(中西ら, 2016)。2017年9月初旬時点で、関西の19市区町村、関東の8市区町村で見つかっています(表1:一部)。

上記の台湾のテントウムシ図鑑によれば、本種はカメムシ、ツノゼミ、キジラミ、アブラムシ、カイガラムシなどを広く捕食するようですが、主には「マルカメムシを食べる」と書かれていました。実際、クズについて、マルカメムシの幼虫を食べているようすも、野外で確認できました。

クズは繁殖力旺盛な、たいへんありふれた植物で、河原や空き地などにたくさん生えています。クズにはマルカメムシのほか、オジロアシナガゾウムシ、クズノチビタマムシなど、たくさんの昆虫が葉や茎について勢いを弱らせているため、おそらくこの程度の^{はびこ}蔓延りで済んでいるのではないかと思います。クズは北アメリカに外来種として入り、現地では摂食する昆虫があまりいないこともあって、猛烈な勢いで育っているようで、民家がクズの蔓で覆い隠される被害にあっている写真を見たことがあります。

ムネアカオオクロテントウの分布は、関西、関東

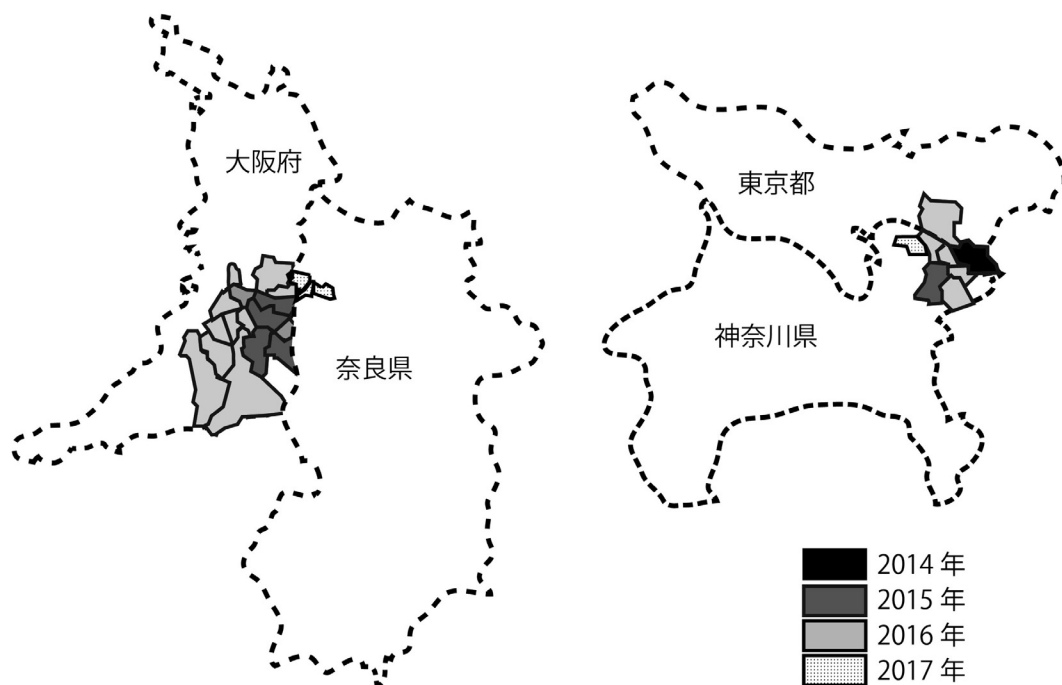


図2: ムネアカオオクロテントウが侵入した市区町村(2017年9月初旬まで)。脱稿後、群馬県でも見つかること

表1：ムネアカオオクロテントウの見つかった市区町村と初発見の年。

関西		関東
2014年		東京都大田区
2015年	大阪府河南町・富田林市・羽曳野市・藤井寺市	横浜市港北区
2016年	大阪府和泉市・大阪狭山市・柏原市・河内長野市・太子町・松原市・八尾市、大阪市東住吉区・堺市北区・東区・美原区・南区	東京都世田谷区、川崎市幸区・中原区・高津区、横浜市鶴見区
2017年	奈良県王寺町・河合町・上牧町	川崎市宮前区

とも広がりを見せています (図2, 表1)。日本でもマルカメムシがこの外来のテントウムシに捕食されることで、クズが勢いよく増えることがないかと懸念しています。

博物館HPの初宿担当のページに、ムネアカオオクロテントウの最新情報を掲載していますので、ぜひご利用いただき、本種を見かけたらご連絡くださるようお願いします。

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/shiyake/Synona-consanguinea.html>

引用文献

伊藤ふくお・古山 暁 2017. 速報 奈良県のムネアカオオ

クロテントウ. ならがしわ (172) : 1-2.

齋藤琢巳・春沢圭太郎・初宿成彦 2016. 大阪府下における *Synona* 属テントウムシの記録. 月刊むし (539) : 46-47.

中西康介・松原 豊・青井幸太郎・持田浩治・日高直哉 2016. 外来種ムネアカオオクロテントウを東京都および神奈川県で発見. さやばね (N. S.) (21) : 58. 日本甲虫学会.

松原 豊 2017. 神奈川県および東京都におけるムネアカオオクロテントウの追加記録. 神奈川虫報 (192) : 6-8.

虞 国躍 2011. 台湾瓢虫図鑑 (The Coccinellidae of Taiwan). 198pp. 化学工業出版社, 北京. (中国語)

＜初宿成彦^{しゃげほひこ}：博物館学芸員＞



図1：ムネアカオクロテントウ。成虫、幼虫、蛹。大阪府河南町で2015年10月1日（本文は8ページ）。